

人類生態学教室年報

2011-2012

Biannual Report of the Department of Human Ecology

2013年6月

東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻

人類生態学教室

Department of Human Ecology, School of International Health,
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

目次 Contents

教育活動 (Educational Activities)	1
学部	
講義	Lectures
実習	Exercises / Practices
原書購読	Paper Reading
大学院	
講義	Lectures and Exercises / Practices
論文	
卒業論文	Graduation Theses
修士論文	Master's Theses
博士論文	Doctoral Dissertations
研究実績 (Research Activities)	14
原著論文	Original Articles
単行本	Books and Book Chapters
総説・資料・他	Reviews, Reports, Essays etc.
学会発表	Presentations in Scientific Meetings
受賞	Awards
競争的資金の獲得 (Research Funds)	26
政府系競争資金 National Research Funds	
文部科学省科学研究費補助金 (代表および分担)	
その他の省庁の科学研究費補助金	
民間財団などの研究助成金 Private Research Funds	
人類生態学研究会 (Meetings on Human Ecology)	28
教室員一覧 (Department Members)	29

教育活動 Educational Activities

□学部

■講義

【薬理・毒性学】（必修—3 年前期 I : 2 単位）

2011 年 4 月—5 月

火曜日:9:00-12:10

2011 年

4 月 5 日	薬理学総論・循環薬理学 飯野正光（薬理 I）
4 月 19 日	薬物間相互作用 鈴木洋史（薬剤部），伊藤晃成（薬剤部）
4 月 26 日	中枢薬理学 三品昌美（薬理 II）
5 月 10 日	毒性学概論（1） 遠山千春（疾患生命工学センター）
5 月 17 日	循環器・生活習慣病領域の臨床試験およびゲノム解析について 山崎力（臨床疫学システム講座） 森田啓行（22 世紀医療センター・健康医科学創造講座）
5 月 24 日	薬のライフサイクルと調査研究 佐藤嗣道（薬剤疫学），久保田潔（薬剤疫学）
5 月 31 日	毒性学概論（2） 渡辺知保（人類生態学）

2012 年 4 月—5 月

火曜日：8:40-12:00

2012 年

4 月 3 日	薬理・毒性学の基本 遠山千春（疾患生命工学センター）
4 月 10 日	自律神経および循環薬理学 飯野正光（薬理 I）
4 月 17 日	薬物動態学の基礎（薬物速度論・薬物間相互作用） 鈴木洋史（薬剤部），伊藤晃成（薬剤部）

- 4月24日 中枢神経の薬理学，化学療法（抗生物質・抗腫瘍薬）
掛山正心（疾患生命工学センター），北潔（生物医科学）
- 5月8日 循環器・生活習慣病領域の臨床試験およびゲノム解析について
山崎力（臨床疫学システム講座）
森田啓行（22世紀医療センター・健康医科学創造講座）
- 5月15日 薬のライフサイクルと調査研究
佐藤嗣道（薬剤疫学），久保田潔（薬剤疫学）
- 5月22日 毒性発現/薬害と公害
渡辺知保（人類生態学）

【環境工学・人間工学】（選択—4年前期Ⅰ：2単位）

2011年4月—5月

木曜日：9:00-12:10

2011年

- 4月7日 ナノテクノロジーが拓く未来医療
西山伸宏（疾患生命工学センター）
- 4月14日 生物・ヒトの生存戦略と未来環境
磯山隆（医用生体工学）
- 4月21日 空間解析と空間心理工学
浅見泰司（空間情報科学研究センター）
- 4月28日 **Ecological Momentary Assessment** の臨床応用
吉内一浩（ストレス防御・心身医学/心療内科）
- 5月12日 環境工学におけるリスク管理
福士謙介（サステイナビリティ学連携研究機構）
- 5月19日 土壌・地下水の汚染と浄化
栗栖太（水環境制御研究センター）

2012年4月—5月

木曜日：8:40-12:00

2012年

- 4月5日 ナノテクノロジーが拓く未来医療
西山伸宏（疾患生命工学センター）
- 4月19日 **Ecological Momentary Assessment** の臨床応用
吉内一浩（ストレス防御・心身医学/心療内科）

4月26日	生物・ヒトの生存戦略と未来環境 磯山隆（医用生体工学）
5月10日	空間解析と空間心理工学 浅見泰司（空間情報科学研究センター）
5月17日	環境工学におけるリスク管理 福士謙介（サステナビリティ学連携研究機構）
5月24日	土壌・地下水の汚染と浄化 栗栖太（水環境制御研究センター）

【環境保健学】（選択—3年後期Ⅰ：2単位）

2011年10月—12月

金曜日：9:15-12:10

2011年

10月21日	環境保健学総論 渡辺知保（人類生態学）
10月28日	大気汚染とその健康影響 新田裕史（国立環境研究所）
11月4日	環境有害化学物質の毒性発現メカニズムと健康リスク 評価 大迫誠一郎（疾患生命工学センター）
11月11日	職場環境における化学物質による中毒とその予防について 吉田稔（八戸大学）
11月18日	環境リスクアセスメント論/疾病適応論・マラリアを題材にして 中澤港（群馬大学医学部）
12月2日	人と自然の共生からみた地域生態系健康論 本郷哲郎（山梨県環境科学研究所）

2012年10月—11月

金曜日：8:40-12:00

2012年

10月19日	環境保健学総論 渡辺知保（人類生態学）
10月26日	環境有害化学物質の毒性発現メカニズムと健康リスク

評価

	大迫誠一郎 (疾患生命工学センター)
11月 2日	大気汚染とその健康影響
	新田裕史 (国立環境研究所)
11月 9日	人と自然の共生からみた地域生態系健康論
	本郷哲郎 (山梨県環境科学研究所)
11月 16日	職場環境における化学物質による中毒とその予防について
	吉田稔 (八戸大学)
11月 30日	環境リスクアセスメント論/疾病適応論・マラリアを題材にして
	中澤港 (神戸大学)

【生理学】(必修—2年後期Ⅱ：2単位)

2011年11月—2012年1月 担当：佐々木誠一 (茨城県立医療大学)

月曜日：13:00-16:10

2011年

11月 28日	生理学の基礎, 呼吸
12月 5日	血液と循環
12月 12日	消化と吸収, 腎臓の機能
12月 19日	内分泌, 生殖

2012年

1月 16日	神経, シナプスと筋
1月 30日	神経系, 感覚

2012年11月—2013年1月 担当：佐々木誠一 (茨城県立医療大学)

月曜日：13:00-16:20

2012年

12月 3日	生理学の基礎, 呼吸, 血液と循環
12月 10日	消化と吸収, 腎臓の機能, 内分泌

2013年

1月 7日	生殖, 神経, シナプスと筋
1月 28日	神経系, 感覚

【人類生態学】（必修—3年前期Ⅱ：2単位）

2011年5月—7月 担当：渡辺知保，梅崎昌裕

火曜日：9:00-12:10

2011年

5月31日	人間生態系とは何か／適応の捉え方
6月7日	栄養の生態学的理解
6月14日	疾病の生態学的理解
6月21日	行動と活動の把握と生態学
6月28日	再生産／生物学的人口学
7月5日	適応手段としての化学物質
7月12日	都市の生態学／サステナビリティ

2012年5月—7月 担当：渡辺知保，梅崎昌裕

火曜日：8:40-12:00

2012年

5月29日	人間生態系とは何か／適応のとらえかた
6月5日	栄養の生態学的理解
6月12日	疾病の生態学的理解
6月19日	行動と活動の把握と生態学
6月26日	再生産／生物学的人口学
7月3日	適応手段としての化学物質
7月10日	都市の生態学／サステナビリティ

【医療人類学】（選択—3年前期Ⅰ・Ⅱ：2単位）

2011年4月—7月 担当：梅崎昌裕，田所聖志，卯田宗平

金曜日：16:20-17:50

2011年

4月22日	オリエンテーション・問題整理①（胃ろうについて）
5月6日	映像教材
5月13日	発表・討論①（胃ろうについて）
5月20日	問題整理②（身体観と健康行動・医療行動の関係）
5月27日	発表・討論②（身体観と健康行動・医療行動の関係）
6月3日	問題整理③（自文化中心主義と文化相対主義）
6月10日	発表・討論③（自文化中心主義と文化相対主義）
6月17日	問題整理④
6月24日	発表・討論④

7月1日 発表・討論⑤
7月8日 発表・討論⑥
7月15日 まとめ
11月19-20日 フィールド実習
場所：千葉県安房郡鋸南町周辺

2012年4月-7月 担当：梅崎昌裕，田所聖志，卯田宗平

金曜日：16:40-18:10

2012年

4月13日 オリエンテーション
4月20日 ①概念を定義してテキストを読み解く：
「胃ろう」にまつわる問題の整理
4月27日 発表・議論
5月11日 ②「身体観」と健康行動・医療行動：現代医療の限界
5月18日 発表・議論
5月25日 ③「自己の評価」と「他者の評価」
6月1日 発表・議論
6月15日 ④「リスク」の解釈と実践をめぐる非合理性について
6月22日 発表・議論
6月29日 ⑤Actor-based approach で捉える人間の行動
7月6日 医療人類学の応用（札幌医科大学・道信良子先生）
7月13日 まとめ①
7月20日 まとめ②
7月24-25日 フィールド実習
場所：千葉県鴨川市周辺

【人口学】（選択-3年後期Ⅱ：1単位）

2011年12月-2012年1月

担当：梅崎昌裕，末吉秀二（吉備国際大学社会学部），中澤 港（群馬大学医学部）

月曜日：16：20-17：50

2011年

12月5日 形式人口学（1）人口構造の分析
12月12日 形式人口学（2）出生力の分析
12月19日 形式人口学（3）死亡率の分析

2012年

- 1月16日 アラブ・イスラム社会の出生規範：ヨルダンの事例
- 1月23日 数理モデルによる人口分析
- 1月30日 途上国の人口問題

2012年12月—2013年1月

担当：梅崎昌裕，小西祥子，末吉秀二（吉備国際大学社会学部），中澤 港（群馬大学医学部）

月曜日：16：40-18：10

2012年

- 12月3日 形式人口学（1）
- 12月10日 形式人口学（2）
- 12月17日 アラブ・イスラム社会の出生規範：ヨルダンの事例

2013年

- 1月21日 日本の人口問題（1）
- 1月28日 日本の人口問題（2）
- 2月4日 途上国の人口問題

■実習

2011年6月

環境保健学実習（選択—4年前期Ⅱ：2単位）

2012年6月

環境保健学実習（選択—4年前期Ⅱ：2単位）

2011年10月

保健学実験・検査法実習：「環境化学」（必修—3年前期Ⅲ：3単位）

2012年10月

保健学実験・検査法実習：「環境化学」（必修—3年前期Ⅲ：3単位）

■原書購読

2011年

該当なし

2012年

梅崎昌裕

Text: McDade TW, Reyes-Garcia V, Blackinton P, Tanner S, Huanca T, Leonard WR (2007) Ethnobotanical knowledge is associated with indices of child health in the Bolivian Amazon. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 104 (15): 6134-6139.

渡辺知保

Text: Walker VR, Jefferson WN, Couse JF, Korach KS (2012) Estrogen Receptor- α Mediates Diethylstilbestrol-Induced Feminization of the Seminal Vesicle in Male Mice. *Environmental Health Perspectives* 120(4): 560-565.

□大学院

■講義

【Human Ecology I (人類生態学特論 I)】

May to June, 2011, Friday 9:30-12:00

May 13 Special Lecture “Health Research in Papua New Guinea”
(10:00-13:00) P. Siba, A. Greenhill, P. Horwood
(Papua New Guinea Institute of Medical Research)

May 20 Concept of Human Ecology
C. Watanabe

May 27 EcoHealth Approach in International Health
K. Moji (Research Institute for Humanity and Nature)

June 3 Methods in Environmental Health
C. Watanabe

June 7 Methods for Nutritional Survey
(Tuesday, 10:40-12:10) M. Umezaki

June 10 Methods for Behavioral Survey
Methods for Demographic Survey
M. Umezaki

June 14 Applying Biomarker Methods in Field Research
(Tuesday, 10:40-12:10) S. Konishi

June 17 Sustainability and Health
M. Umezaki, C. Watanabe

May to July, 2012, Friday 9:30-12:00

May 7 Introduction of Human Ecology
Ecology of diseases
C. Watanabe

May 14 Special lecture "International Health and Human Ecology"
K. Moji (Research Institute for Humanity and Nature)

May 21 Biomarkers and health/environmental risks
C. Watanabe

May 28 Cities, urbanization and health
C. Watanabe

June 11 Dietary survey
M. Umezaki

- June 18 GIS use in health sciences, Demographic survey
M. Umezaki
- July 2 Sustainability and health
C. Watanabe
Human Ecology Research Design
M. Umezaki

【Human Ecology II (人類生態学特論II)】

November, 2011, Wednesday 10:00-16:00 (with lunch break)

- November 2 “The Taiwan Crisis: A Showcase of Global Arsenic Problem.
(Arsenic in the Environment, Vol. 3) J.-S. Jean et al., CRC
Press, 2010 [reading assignment]
S. Himeno (Tokushima Bunri University)
- November 9 “Heavy metals in our environment --- Exposure, health risk
and source apportionment” [lecture]
J. Yoshinaga (Graduate School of Frontier Sciences)
- November 16 “Human-Chimpanzee interfaces in the West African
landscape: Evolution, zoonoses, and conservation” [lecture]
G. Yamakoshi (Kyoto University)
- November 30 “Modernization and Health” [reading assignment]
T. Inaoka (Saga University)

October to November, 2010, Wed 10:00-16:00 (with lunch break)

- October 27 “Human-Chimpanzee interfaces in the West African landscape:
Evolution, zoonoses, and conservation” [lecture]
G. Yamakoshi (Kyoto University)
- November 10 “The Taiwan Crisis: A Showcase of Global Arsenic Problem.
(Arsenic in the Environment, Vol. 3) J.-S. Jean et al., CRC
Press, 2010 [reading assignment]
S. Himeno (Tokushima Bunri University)
- November 17 “Heavy metals in our environment --- Exposure, health risk
and source apportionment” [lecture]
J. Yoshinaga (Graduate School of Frontier Sciences)
- November 24 “Case studies in global health: millions saved” by Ruth Levine,
2007 (Jones & Bartlett Learning) [reading assignment]
T. Inaoka (Saga University)

□論文

■卒業論文 **Graduation Theses**

2011 年度

該当なし

2012 年度

井上雄太 中山間地域における民間療法の役割と住民の医療対処行動

濱松由莉 東日本大震災が日本人の再生産行動・出生性比に与えた影響

松野佑真 バングラデシュ集団における無機ヒ素暴露による酸化ストレスと血漿中セレンとの関連

■修士論文 **Master's Theses**

2011 年度

Alan Eduardo Riquelme Castillo チリ中央部における季節農業労働者の生活習慣に見る
心血管疾患スク要因
**Cardiovascular Risk Factors in Relation to Lifestyle
among Seasonal Farm Workers in Central Chile**

Li Dandan 中国・海南島に居住する子ども及び成人の全血中 C 反応性タンパク濃
度に影響する要因について
**Predictors of C-Reactive Protein (CRP) among Children and Adults
in Hainan Island, China**

Nicole Pei Hsuan Chou タイの一工業団地近隣居住者におけるボトル入り飲料水の利用と
糖代謝に関わるバイオマーカーとの関連
**Association of bottled water usage with biomarkers related to
glucose metabolism among Thai residents living in the vicinity
of an industrial estate**

- 山下彩香 フィリピン国ベンゲット州ルネタ村における小規模金採鉱者の生存戦略
Survival strategies of small-scale gold miners in Luneta, Benguet,
Republic of the Philippines
- 2012 年度
- 小坂理子 豪雪地帯における身体活動と近隣環境：雁木通りの役割
Physical Activity and Neighborhood Environment in Heavy
Snowfall Areas: The Roles of “Gangi-dori”
- 平田千幸 インドネシア西ジャワ州スندا農村における食物摂取と身体活動の
研究
Study on Food Intake and Physical Activity Pattern of Sundanese
villagers in West Java, Indonesia
- 矢澤亜季 中国海南島少数民族コミュニティにおける生活様式の変容が“ストレ
ス”に及ぼす影響
Impacts of Lifestyle Changes on “Stress” in Minority Populations in
Hainan Island, China
- Ser Ping Han バングラデシュにおける妊娠期のヒ素曝露による妊婦および小児の免
疫状態の分析
Effects of arsenic exposure during pregnancy on maternal and infant
immunoglobulin G levels in Bangladesh

■博士論文 **Doctoral Dissertations**

2011 年度

該当なし

2012 年度

- Nayar Sultana 無機ヒ素に曝露されたバングラデシュ集団における性と遺伝多型が無

機ヒ素代謝と酸化ストレスに及ぼす影響

Influence of gender and genetic polymorphisms on inorganic arsenic
metabolism and oxidative stress among arsenic-exposed
Bangladeshi Population

研究業績 **Research Activities**

原著論文 **Original Articles**

Bagrowicz R, Umezaki M, Watanabe C. Is Obesity Contagious by Way of Body Image? A Study on Japanese Female Students in the United States. *Journal of Community Health* (in press).

Comber A, Umezaki M, Zhou R, Ding Y, Li Y, Fu H, Jiang H W, Tewkesbury A (2012) Using shadows in high-resolution imagery to determine building height. *Remote Sensing Letters* 3(7): 551-556.

Furusawa T, Furusawa H, Eddie R, Tuni M, Pitakaka F, Aswani S (2011) Communicable and non-communicable diseases in the Solomon Islands villages during recovery from a massive earthquake in April 2007. *The New Zealand Medical Journal* 124(1333):17-28.

Honda A, Watanabe C, Yoshida M, Nagase H, Satoh M (2013) Microarray analysis of neonatal brain exposed to cadmium during gestation and lactation. *Journal of Toxicological Science* 38(1): 151-3.

Inoue Y, Umezaki M, Watanabe C (2012) Emergence of income inequality and its impact on subjective quality of life in an ethnic minority community in Hainan Island, China. *Anthropological Science* 120(1):51-60.

Inoue Y, Umezaki M, Watanabe C (2013) Geographic Clustering of the Secondary Sex Ratio in Japan: Association with Demographic Attributes. *Journal of Biosocial Science* 45(2):279-284.

Konishi S, Brindle E, Guyton A, O'Connor K A (2012) Salivary concentration of progesterone and cortisol significantly differs across individuals after correcting for blood hormone values. *American Journal of Physical Anthropology* 149:231-241.

Konishi S, Parajuli RP, Takane E, Maharjan M, Sharma S, Tachibana K, Jiang HW, Pahari K, Pandey BD, Watanabe C (2011) Health status of married women residing five communities in Nepal: Unexpectedly high prevalence of anemia in a well-off community of Kathmandu. *Nepal Medical College Journal* 13: 1-6.

Konishi S, Watanabe C, Umezaki M Ohtsuka R (2011) Energy and nutrient intake of Tongan adults estimated by 24-hour recall: The importance of local food. *Ecology of Food and Nutrition* 50: 337-350.

Lee JS, Kondo K, Kawakubo K, Kataoka Y, Mori K, Umezaki M, Yamauchi T, Asami Y, Takagi H, Akabayashi A (2011) Neighborhood environment associated with daily physical activity measured both objectively and subjectively among residents in a community in Japan. *Japanese Journal of Health and Human Ecology* 77: 94-107.

Mekrungrongwong S, Nakamura K, Kizuki M, Morita A, Somkotra T, Seino K, Takano T (2011) Great inclination to smoke among younger adults coming from low-socioeconomic class in Thailand. *International Archives of Medicine* 4 (1): 29

Niwa M, Suzuki Y, Yoshinaga J, Watanabe C, Mizumoto Y (2011) Prenatal exposure to polycyclic aromatic hydrocarbons and birth outcomes. *Polycyclic Aromatic Compounds* 31(1): 16-27.

Nojo S, Ihara Y, Furusawa H, Akamatsu S, Ishida T (2011) Facial resemblance and attractiveness: an experimental study in rural Indonesia. *Letters on Evolutionary Behavioral Science* 2(1):9-12.

Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Furusawa H, Ser PH, Watanabe C (2012) Cord Blood Levels of Toxic and Essential Trace Elements and their Determinants in the Terai Region of Nepal: A Birth Cohort Study. *Biological Trace Element Research* 147(1-3): 75-83.

Parajuli RP, Fujiwara T, Umezaki M, Watanabe C (2013) Association of Cord Blood Levels of Lead, Arsenic, and Zinc with Neurodevelopmental Indicators in Newborns: A Birth Cohort Study in Chitwan Valley, Nepal. *Environmental Research* 121:45-51.

Parajuli RP, Umezaki M, Watanabe C (2011) Diet among people in the Terai region of Nepal, an area of micronutrient deficiency. *Journal of Biosocial Science* 44(4): 401-415

Pichenda K, Nakamura K, Morita A, Kizuki M, Seino K, Takano T (2012) Non-hospital DOT and early diagnosis of tuberculosis reduce costs while achieving treatment success. *The International Journal of Tuberculosis and Lung Disease* 16 (6) 828-34.

Sakamoto M, Yasutake A, Kakita A, Ryufuku M, Chan H M, Yamamoto M, Oumi S, Kobayashi S, Watanabe C (2013) Selenomethionine Protects against Neuronal Degeneration by Methylmercury in the Developing Rat Cerebrum. *Environmental Science and Technology* 47(6):2862-8.

Ser PH, Watanabe C (2012) Fish advisories in the USA and Japan: Risk communication and public awareness of a common idea with different backgrounds. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition* 21(4):487-94.

Stickley A, Koyanagi A, Richardson E, Roberts B, Balabanova D, McKee M (2013) Prevalence and factors associated with the use of alternative (folk) medicine practitioners in 8 countries of the former Soviet Union. *BMC Complementary and Alternative Medicine* 13:83.

Takahashi M, Eriguti T, Ji H, Umezaki M, Watanabe C, Koga M, Arizono K (2011) Dichloroaniline in human urine relevant to the lifestyle in four cities in Nepal. *Organohalogen Compounds* 72: 902-905.

Vengiau G, Umezaki M, Phuanukoonnon S, Siba P, Watanabe C (2012) Diet and physical activity among migrant Bougainvilleans in Port Moresby, Papua New Guinea: association with anthropometric measures and blood pressure. *American Journal of Human Biology* 24(5):716-718.

Yasumoto S, Jones A, Shimizu C. Longitudinal trends in equity of park accessibility in Yokohama, Japan: An investigation of the role of causal mechanisms. *Environment and Planning A* (in press).

Yasutake A, Yoshida M, Honda A, Watanabe C, Satoh M (2012) Distribution of mercury in metallothionein-null mice after exposure to mercury vapor: Amount of metallothionein isoform does not affect accumulation of mercury in the brain. *Journal of Toxicological Sciences* 37(4):765-771.

Yoshida M, Honda M, Watanabe C, Satoh M, Yasutake A (2011) Neurobehavioral changes and alteration of gene expression in the brains of metallothionein-I/II null mice exposed to low levels of mercury vapor during postnatal development. *The Journal of Toxicological Sciences* 36(5): 539-47.

Yoshida M, Suzuki M, Satoh M, Yasutake A, Watanabe C (2011) Neurobehavioral effects of combined prenatal exposure to low-level mercury vapor and methylmercury. *The Journal of Toxicological Sciences* 36(1): 73-80.

Yoshida M, Suzuki M, Satoh M, Yasutake A, Watanabe C (2012) Blood lead levels of contemporary Japanese children. *Environmental Health and Preventive Medicine* 17(1): 27-33.

Yoshida M, Watanabe C, Honda A, Satoh M, Yasutake A (2013) Emergence of delayed behavioral effects in offspring mice exposed to low levels of mercury vapor during the lactation period. *Journal of Toxicological Science* 38(1): 1-6.

Yoshinaga J, Takagi M, Yamasaki K, Tamiya S, Watanabe C, Kaji M (2012) Blood lead levels of contemporary Japanese children. *Environmental Health and Preventive Medicine* 17(1):27-33.

Zhou R, Li Y, Umezaki M, Ding Y, Jiang H W, Comber A, Fu H. Association between physical activity and neighborhood environment among middle-age adults in Shanghai. *Journal of Environmental and Public Health* (in press).

周热娜, 傅华, 李洋, Umezaki M (2013) 上海市某两所中学初中生体力活动环境影响因素分析 (身体活動と居住環境の関連分析: 上海市における2つの中学校の生徒を対象にした研究). 复旦学报 (医学版) 40: 193-198.

田中美加, 久佐賀眞理, 田ヶ谷浩邦, 井美代子, 小嶋麻美, 渡辺知保 (2012) 地域在住高齢者における睡眠と生活機能との関連. 日本衛生学雑誌 67(4): 492-500.

田中美加, 久佐賀眞理, 田ヶ谷浩邦, 大倉美鶴, 渡辺知保 (2012) 地域高齢者の睡眠と抑うつとの関連における性差. 日本公衆衛生学会誌 59(4): 239-250.

□単行本 **Books and Book Chapters**

Umezaki M (2013) Yesterday's friend is today's enemy: The Huli society of Papua New Guinea. Kawai K. (ed.) Groups: The Evolution of Human Sociality. Kyoto University Press, pp. 187-196.

Watanabe C. Role of health sciences in tackling with groundwater contamination. In Lee, K-M and Kauffmann, J (eds.) "Handbook of Sustainable Engineering". Springer (in press).

小西祥子「トンガ人はなぜ太る？—人類生態学から考える—」古田元夫(監修), 東大 ASNET (編)『アジアの環境研究入門』 東京大学出版会. (2013年10月刊行予定)

関山牧子, 渡辺知保 (2011)「アジア人の健康-豊かに生きる」小宮山宏, 武内和彦, 住明正, 花木啓祐, 三村信男 (編)『サステナビリティ学5. 持続可能なアジアの展望』 東京大学出版会 pp. 163-200.

渡辺知保, 梅崎昌裕, 中澤港, 大塚柳太郎, 関山牧子, 吉永淳, 門司和彦 (2011)「人間の生態学」朝倉書店.

□総説・資料・他 **Reviews, Reports, Essays etc.**

梅崎昌裕 (2013) イモムシ煎り煮. ヴェスタ, 90: 62-65.

梅崎昌裕 (2013) クムはおふくろの味: 葉野菜の水煮. ヴェスタ, 89: 44-48.

梅崎昌裕 (2012) 飲むパンダナス. ヴェスタ, 88: 52-55.

梅崎昌裕 (2012) 食べる樹木: サゴ椰子. ヴェスタ, 87: 64-67.

梅崎昌裕 (2012) パプアニューギニア高地のブタ. ヴェスタ, 86: 62-65.

梅崎昌裕 (2012) パプアニューギニア高地のサツマイモ. ヴェスタ, 85: 66-69.

小西祥子 (2011) 再生産機能の老化に関する学際的プロジェクト (東日本地域部会報告).
人口学研究. 第 47 号 : 121.

田所聖志 (2011) 「パプアニューギニアの子育て (親族関係)」『保健の科学』 53(1): 9-13.

田所聖志 (2012) 「書評: 小谷真吾著『姉というハビトゥス: 女児死亡の人口人類学的民族誌』東京大学出版会、2010 年、201 頁、6,500 円+税」『文化人類学研究』 12: 136-137.

田所聖志 「書評: 作道信介著『糞肛門: ケニア・トゥルカナの社会変動と病気』東京、恒星社厚生閣、2012 年、230 頁、2,800 円 (+税)」『文化人類学研究』 (印刷中).

渡辺知保: Anthropocene と planetary boundaries - 地球環境の新たなとらえ方と人間の生存・健康 医学のあゆみ, 236, 1139-42 (2011)

□学会発表 **Presentations in Scientific Meetings**

Furusawa H, Morknøy D, Chou P, Tammatak T, Sirikanyaporn S, Jaikanlaya C, Tantrakarnapa K, Watanabe C, Yamamoto K. Variation in quality of drinking water utilized by residents nearby Bang Pa-In Industrial Estate in Thailand. International Water Association World Congress on Water, Climate and Energy 2012, May 13-18, 2012, Dublin, Ireland.

Furusawa H, Ihara Y, Soemantri AG, Ishida T. Effects of consanguineous marriages on offspring survival among Sumbanese in Indonesia. 96th Ecological Society of America Annual Meeting. August 10, 2011, Austin, TX, USA.

Furusawa T, Nakamura S, Furusawa H. Time- and space-saving method for sampling, storage, and identification of water-borne pathogenic bacteria by using detection papers: with a case report of Indonesia. The 10th International Symposium Southeast Asian Water Environment. November 8-10, 2012, Hanoi, Vietnam.

Inoue Y, Umezaki M, Li D, Konishi S, Du J, Watanabe C. Transition to a market economy and C-reactive protein concentrations among rural communities in Hainan Island, China. Human Biology Association Meetings 2013. April 11, 2013, Knoxville, TN, USA.

Jin Y, Niino N, Feng Y, Morita A, An S, Haga H. Medium-to long-term effectiveness of positive psychology approach in preventing depressive symptoms of the community elderly. 2013 World Congress on International Positive Psychology Association. June 2013, Los Angeles, CA, USA.

Jin Y, Niino N, Feng Y, An S, Morita A, Haga H. Effectiveness of Positive Psychology Approach (PPA) to Decrease Depression Symptoms in Older Adults in Relationship to Changes in Other Mental Health State. 9th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology & Geriatrics. October 2011, Melbourne, Australia.

Konishi S, Brindle E, O'Connor KA. Effect of Past Hormonal Contraceptive Use on Blood, Salivary, and Urinary Progesterone Levels in Young Women. Population Association of America 2011 Annual Meeting. April 1, 2011, Washington, DC, USA (poster).

Li D, Inoue Y, Konishi S, Umezaki M, Watanabe C. Predictors of C-reactive protein among children in five communities in Hainan Island, China. The 76th Annual Meeting of the Japanese Society of Health and Human Ecology. November 24, 2011, Fukuoka, Japan.

Morita A, Yu J, Yu F, An S. Factors associated with well-being of Japanese frail older adults and effectiveness of group positive psychology intervention. 2013 World Congress on International Positive Psychology Association. June 2013, Los Angeles, CA, USA.

Morita A, Natsuhara K, Greenhill AR, Horwood PF, Odani S, Baba J, Naito Y, Tadokoro K, Vengiau G, Tomitsuka E, Igai K, Soli KW, Phuanukoonnon S, Siba PM, Umezaki M. Estimation of protein intake by a food frequency questionnaire in Papua New Guinean highlanders. 38th Annual Meeting Program 2013 Human Biology Association. April 10, 2013, Knoxville, TN, USA.

Natsuhara K, Umezaki M, Phuanukoonnon S, Inaoka T, Vengiau G, Suda K, Tadokoro K, Naito Y, Watanabe C, Siba P. Prevalence of Risk Factors for Cardiovascular Diseases in Modernizing Villages in Papua New Guinea. 48th Annual Symposium of the Medical Society of Papua New Guinea. September 2-7, 2012, Port Moresby, Papua New Guinea.

Riquelme A, Konishi S, Watanaeb C. Cardiovascular risk factors in relation to lifestyle and behavioral factors among seasonal farm workers in Central Chile. The 76th Annual Meeting of the Japanese Society of Health and Human Ecology. November 24, 2011, Fukuoka, Japan.

Soli KW, Kas M, Maure T, Umezaki M, Morita A, Igai K, Greenhill AR, Siba PM, Horwood PF. Development of field-based loop mediated isothermal amplification (LAMP) methods for the detection of enteric pathogens in a developing setting. (To be presented at the annual scientific meeting of Australian Society of Microbiology. July 2013, Adelaide, Australia.

Soli KW, Kas M, Maure T, Umezaki M, Morita A, Igai K, Greenhill AR, Siba PM, Horwood PF. Aetiology of acute watery diarrhoea in children in Goroka, Papua New Guinea. Papua New Guinea Medical Society 48th annual medical symposium. September 2012, Port Moresby, Papua New Guinea.

Sultana N, Watanabe C, Furusawa C, Umezaki M, Inaoka T. Gender Disparity in Inorganic Arsenic-induced Oxidative Stress among Bangladeshi Population Exposed to High Arsenic Through Drinking Water. The 6th International Congress of Asian Society of Toxicology. July 19, 2012, Sendai, Japan.

Sultana N, Watanabe C, Furusawa H, Umezaki M, Inaoka T. The role of gender in inorganic arsenic induced oxidative stress among Bangladeshi population exposed to high arsenic through drinking water. International Society for Environmental Epidemiology. September 13-16, 2011, Barcelona, Spain.

Tadokoro K, An Analysis of the organization of groups for fish poisoning among the Tewada of Papua New Guinea. IUAES/AAS/ASAANZ Conference 2011. July 8, 2011, Perth, WA, Australia.

Tasmin S, Furusawa H, Inoue Y, Faruquee MH, Cho NPH, Watanabe C. Delta-Aminolevulinic Acid Dehydratase (ALAD) polymorphism in lead exposed Bangladeshi children and its effect on urinary aminolevulinic acid (ALA). International Society for Environmental Epidemiology. September 13-16, 2011, Barcelona, Spain.

Tsukahara T, Furusawa T, Tadokoro K, Kondo N, Sekihara M, Mita T, Endo H, Hombhanje FW. Treatment seeking behavior of malaria in a coastal area of East Sepik Province. 48th Annual Medical Symposium, Medical Society of Papua New Guinea. September 2-7, 2012, Port Moresby, Papua New Guinea.

Umezaki M. Impact of modernization on nutritional health: A case study in Papua New Guinea. 1st International Forum for Tropical Disease Prevention and Control in Asian-Pacific Region and the 4th International Forum for Sustainable Vector Management. November 25-29, 2012, Haikou, China.

Umezaki M, Phuanukoonnon S, Natsuhara K, Inaoka T, Vengiau G, Suda K, Tadokoro K, Naito Y, Watanabe C, Siba P. Evaluation of Environmental Burden due to Subsistence Transition in Papua New Guinea (EASTPNG study). 48th Annual Symposium of the Medical Society of Papua New Guinea. September 2-7, 2012, Port Moresby, Papua New Guinea.

Vengiau G, Umezaki M, Phuanukoonnon M, Siba P, Watanabe C. Nutritional transition among Naasioi Migrants in Port Moresby: Effect of Dietary and Physical Activity Patterns on Anthropometric Measurements. 47th Papua New Guinea Medical Symposium. August 29 - September 3, 2011, Kimbe, Papua New Guinea.

Watanabe C. Introduction of the GRENE Ecohealth Project for Monitoring the Environment and Health. Joint International Tropical Medicine Meeting. December 12-14, 2012, Bangkok, Thailand. [invited]

Watanabe C. GRENEcoH (GRENE-Ecohealth) project in the context of GRENE. Second JSPS-AASPP/GRENE-EcoHealth joint International Symposium on Development of International Network on Health risk Assessment in Urban Area. December 11, 2012, Dhaka, Bangladesh.

Watanabe C. Thinking health in various time scales. 4th International Eco-Summit: Ecological Sustainability – Restoring the planet's ecosystem services. October 1, 2012, Columbus, OH, USA.

Watanabe C. Consumption and population in underdeveloped nations: The health impacts of food consumption by high density populations: Case study from Bangladesh. [Human Ecology Section Symposium - Human Behaviour and Sustainability: Addressing Barriers to Change] Ecological Society of America Annual Meeting. August 7, 2012, Portland, OR, USA.

Watanabe C (Session organizer & chair). Population and Sustainability; ICSS-Asia meeting. January 13, 2012, Bali, Indonesia.

Watanabe C, Arizono K, Umezaki M, Gunawan B, Abdollarh O, Pahari K, Lam TD. Introduction of and Exposure to Chemicals in Asian Developing Countries. The XVIIIth International Conference of the Society for "Human Ecology Human Responsibility & Environmental Change: Planning, Process, and Policy". April 22, 2011, Las Vegas, NV, USA.

Watanabe C. Can global observation data reveal local social adaptations towards sustainability? ICSS-Asia 2011, Vietnam National University-Hanoi. March 3-5, 2011, Hanoi, Vietnam.

梅崎昌裕. パプアニューギニア集団における生業転換の健康影響. 第65回日本人類学会大会. 2011年11月4~6日, 那覇.

小坂理子, 梅崎昌裕, 渡辺知保. 豪雪地帯における冬期の身体活動に果たす雁木の役割について. 第77回日本民族衛生学会. 2012年11月16日, 東京.

小坂理子, 梅崎昌裕, 渡辺知保. 雁木通りが積雪期の身体活動に与える影響. 東京大学空間情報科学研究センター2012年度全国共同利用研究発表大会 CSIS DAYS 2012. 2012年11月3日, 東京.

小西祥子. 年齢と妊孕力 (Age and fecundity). 日本人口学会第65回大会. 2013年6月2日, 札幌.

小西祥子. 不妊と人口 (テーマセッション「不妊と人口」趣旨説明). 日本人口学会第65回大会. 2013年6月2日, 札幌.

小西祥子. トンガ王国からの海外移住と出生率. 日本人口学会第 64 回大会. 2012 年 6 月 2 日, 東京.

小西祥子. 人類生態学と人口学 (テーマセッション「人類生態学と人口学」趣旨説明). 日本人口学会第 64 回大会. 2012 年 6 月 2 日, 東京.

小西祥子, 玉置えみ. 再生産機能の老化に寄与する環境・行動・遺伝的素因の影響の解明を目指す学際プロジェクト. 日本人口学会第 63 回研究大会. 2011 年 6 月 12 日, 京都.

小西祥子. 人口学研究におけるバイオマーカーの利用の重要性と問題点. 日本人口学会第 63 回研究大会. 2011 年 6 月 11 日, 京都.

サイラ・タスミン, 古澤華, 井上陽介, ファルキー・エムエイチ, 渡辺知保. 鉛曝露バンダラデシュ小児における ALAD 遺伝多型と尿中 ALA レベルへの影響. 第 82 回日本衛生学会総会. 2012 年 3 月 24-26 日, 京都.

田所聖志. パプアニューギニア、テワーダの狩猟と漁撈からみた人間と動物との境界. 日本文化人類学会第 46 回研究大会, 2012 年 6 月 23 日, 広島.

田所聖志. 人間と動物の境界についての人類学研究へ向けて——霊長類学と文化人類学の視点から. 日本文化人類学会第 46 回研究大会, 2012 年 6 月 23 日, 広島.

田所聖志, 梅崎昌裕. ポートモレスビーのフリセトルメントにおける人口流動. 日本オセアニア学会第 29 回研究大会, 2012 年 3 月 24 日, 倉敷.

田所聖志. 趣旨説明——ニューギニア地域研究の視点から. 地域研究コンソーシアム・ワークショップ「人間と動物の境界は地域研究の対象たりえるか?」. 2012 年 2 月 5 日, 京都.

田所聖志. 「人間と動物の境界」は地域研究の対象たりえるのか——アフリカとメラネシアからの発信. 地域研究コンソーシアム・2011 年度年次集会. 2011 年 11 月 5 日, 大阪.

チュ・ペイシェン, 古澤華, モークノイ・デイジー, ジャイカンラヤ・チャート, タントウラカルナバ・クライチャット, 渡辺知保. タイの工業地帯の居住者における飲料水の利用と糖代謝に関わるバイオマーカーとの関連. 第 82 回日本衛生学会総会. 2012 年 3 月 24-26 日, 京都.

塚原高広，古澤拓郎，田所聖志，近藤尚己，美田敏宏，遠藤弘良．パプアニューギニア村落におけるマラリア早期治療を阻む因子．第 52 回日本熱帯医学会大会・第 26 回日本国際保健医療学会学術大会・合同大会．2011 年 11 月 4 日，東京．

塚原高広，古澤拓郎，田所聖志，近藤尚己，美田敏宏，遠藤弘良．一次医療が普及したパプアニューギニア村落部におけるマラリア適正治療の現状．第 71 回日本寄生虫学会東日本支部大会．2011 年 10 月 1 日，東京．

平田千幸，関山牧子，須藤紀子，Budhi Gunawan，Oekan S. Abdoellah，渡辺知保．インドネシア西ジャワ州スダ農村における成人男女のエネルギー収支．第 77 回日本民族衛生学会総会．2012 年 11 月 16 日，東京．

古澤華，チュ・ペイシェン，モークノイ・デイジー，ジャイカンラヤ・チャート，タントウラカルナパ・クライチャット，渡辺知保．タイ工業団地周辺住民が自宅で使い分ける水の水質分析．第 82 回日本衛生学会総会．2012 年 3 月 24-26 日，京 都．

矢澤亜季，梅崎昌裕，井上陽介，李丹丹，杜 建偉，渡辺知保．市場経済化の浸透による生活環境の変化とその心理ストレスへの影響 ―中国海南省少数民族コミュニティにおける事例―．第 77 回日本民族衛生学会総会．2012 年 11 月 16 日，東京．

安本晋也，Andrew Jones，清水千弘．Environmental Equity of Park Accessibility in Japan: Role of park providers and market mechanisms．第 13 回 Market Quality Workshop．2013 年 3 月 4 日，京都大学．

□受賞 Awards

該当なし

競争的資金の獲得 Research Funds

□政府系競争資金 National Research Funds

基盤研究（B）（一般）「無機砒素毒性発現における性差の機序と毒性学的意義の解明」（代表：渡辺知保，連携：清水華）2011-2013 年度

日本学術振興会特別研究員奨励費「中国海南省農村部コミュニティにおける《都市的なるもの》の拡がり与健康影響」（代表：井上陽介）2011-2012 年度

日本学術振興会特別研究員奨励費「中国海南島少数民族コミュニティにおける都市化による健康影響の多様性」（代表：矢澤亜季）2013-2015 年度

若手研究（B）「喫煙が日本人女性の再生産機能の老化に及ぼす影響」（代表：小西祥子）2011-2014 年度

若手研究（B）「妊娠中の感染と低栄養が引き起こす胎児のエピジェネティック変化に関する研究」（代表：清水華）2010-2012 年度

■その他の省庁の科学研究費補助金

最先端・次世代研究開発支援プログラム（内閣府）「パアニューギ高地人がサツマイモを食べて筋肉質になるのはなぜか」（代表：梅崎昌裕）2010 -2013 年度

東京大学 AGS 研究会研究助成「高齢化するアジア人口の将来：持続可能な対応方策はあるか」（代表：梅崎昌裕，分担：渡辺知保）2012 年度

文部科学省 気候変動適応研究推進プログラム「大気環境物質のためのシームレス同化システムの構築とその応用（SALSA）」（分担：渡辺知保，代表：中島映至<東京大学>）2010-2014 年度

文部科学省 環境技術等研究開発推進事業費補助金（グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス（GRENE）環境情報分野）「気候，土地利用，人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成」（代表：渡辺知保）2011-2013 年度

□民間財団の研究助成

公益法人総合健康推進財団助成「高齢期の身体活動量を促進する地域環境要因に関する研究」(代表：森田彩子) 2013年1月-12月

ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究助成「ポスト人口転換期におけるオプティマルな対処方策の検討」(代表：梅崎昌裕) 2012年11月-2014年3月

人類生態学研究会 Meetings on Human Ecology

第 25 回 (2011 年 7 月 2 日) 於 教育研究棟 13 階第 5 セミナー室

井上 陽介 (人類生態学教室)

中国海南省農村部コミュニティにおける市場経済化の浸透と健康

小西 祥子 (人類生態学教室)

フィールド調査に適したステロイドホルモン測定方法の妥当性の検討

末吉 秀二 (吉備国際大学)・大塚 柳太郎 (自然環境研究センター)

父親の名前をとおした血族関係の家系人口研究：南部ヨルダンの高出生力アラブ集団の事例

河辺 俊雄 (高崎経済大学)

ギデラの暮らし・伝統文化・自然環境

第 26 回 (2012 年 7 月 14 日) 於 教育研究棟 13 階第 5 セミナー室

Tasmin, Saira (人類生態学教室)

Delta-Aminolevulinic Acid Dehydratase(ALAD) polymorphism in lead exposed Bangladeshi children and its effect on urinary Aminolevulinic Acid (ALA)

古澤 華 (人類生態学教室)

スンバ人の生存と共生

安高 雄治 (関西学院大学)

マダガスカル南西部の自然保護区拡張における問題と展望

門司 和彦・蔣 宏偉 (総合地球環境学研究所)

エコヘルス：健康と環境への人類生態学的接近

教室員一覧 Department Members

名誉教授

鈴木継美 (2008 年5 月ご逝去)
大塚柳太郎

教授

渡辺知保

准教授

梅崎昌裕

非常勤講師

佐々木誠一	茨城県立医療大学
中澤 港	神戸大学大学院保健学研究科
吉田 稔	八戸大学人間健康学部
新田裕史	国立環境研究所
本郷哲郎	山梨県環境科学研究所
末吉秀二	吉備国際大学社会学部
門司和彦	総合地球環境学研究所
姫野誠一郎	徳島文理大学薬学部
稲岡 司	佐賀大学農学部
山越 言	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

助教

古澤華
小西祥子

特任講師 (グローバル 30)

Stickley, Andrew 2012.4-

特任助教 (最先端・次世代)

富塚江利子
森田彩子

特任助教（グローバル 30）

田所聖志

特任助教（MEXT GRENE プロジェクト）

安本晋也 2013.4-

特任助教（UEHAS）

井上陽介 2013.5-

特任研究員／客員研究員／特別研究学生

Parajuli, Rajendra Prasad 2013.5-

吉澤剛士

猪飼 桂

サポートスタッフ

高橋絵実

大和田昌代 [最先端・次世代]

太田玲子 [最先端・次世代]

藤森美佳 -2013.3

新杉知沙 2013.6-

博士課程大学院生

Tasmin, Saira

小坂理子

新城梨奈子

矢澤亜季

修士課程大学院生

Begum, Mumtaz

Chou, Nicole Pei Hsiuan

Ferdosi, Kabir Ayesha

Fillman, Jennifer Tokiko

Li, Dan-dan

Riquelme, Alan Eduardo Castillo

Ser, Ping Han

井上雄太

陳 少明
濱松由莉
松野佑真
平田千幸
山下彩香